



事業領域・業容の拡大を図り「従業員が誇りを持てる会社」を目指す

和東運輸株式会社 京都府木津川市

和東運輸株式会社はトラックによる貨物輸送を担っており、大手家電メーカーをはじめとする幅広い取引先を有している。保有車両は約130台を数え、大阪府、愛知県、石川県にも自社物流拠点を備えている。

現社長は就任後、収支の管理方法を見直すことで、ドライバー1人ひとりを適正に評価する体系を確立。2015年には同業他社をM&Aにより関連会社としてグループ傘下に収め、重量物や食料品など従来同社で取扱ってこなかった荷物の輸送ノウハウを獲得、事業領域の拡大に成功した。

今後も“和東運輸”のブランドを高め「従業員が誇りを持てる会社」を目指す。

会社概要



会社名：和東運輸株式会社
所在地：京都府木津川市山城町上粕東下16-2
電話：0774-86-4777
FAX：0774-86-3536
設立：1957（昭和32）年1月
代表者：代表取締役社長 杉本 哲也
資本金：1,500万円
従業員：185名（パート含む）
事業内容：一般貨物自動車運送業、自動車運送取扱業、一般貨切旅客自動車運送業、倉庫業
URL：<http://www.wazuka-group.co.jp/>



本社（上）と中部営業所（左）



逆境を乗り越え収益基盤を強化

京都府南部、木津川市に本社を置く和東運輸株式会社はトラックによる貨物輸送を担っており、大手家電メーカーをはじめとする幅広い取引先を有している。

創業は1957年、社名にもなっている京都府相楽郡和束町にて、創業者・杉本嘉造氏が20台程度のトラックで木材輸送を始めたのが起源である。やがて、地縁を通じて大手家電メーカーの物流業務の請負を始めるようになり、順次業容を拡大、同メーカーからの請負業務は最盛期には同社の仕事の約7割を占め、強固な収益基盤となっていた。

しかし、その後同メーカーが物流専門会社を設立し、外部発注を削減したことから請負業務が激減。同社は危機的な状況に追い込まれることとなった。

当時営業を任されていた現社長・杉本哲也氏（43歳）は取引先や協力会社等を必死で回り、仕事の受注に奔走したという。これが転機となり、大手家電メーカー1社に偏っていた取引先を幅広く分散したことで、取引解消に起因する経営リスクの低減に成功。逆境がむしろ収益基盤を強化するきっかけとなったのである。

現在では10トントラック、トレーラーを含め約130台の車両を保有し、大阪府、愛知県、石川県にも自社物流拠点を備えるまでになっている。

「トラック1台毎」に収支を管理

2013年、先代・杉本邦一氏の急死により40歳の若さで急遽、経営の舵を取ることとなった社長。「先代からは何の引継ぎも受けていなかったし、周囲からも『本当に社長が務まるのか?』と言われた」と当時の状況を振り返る。しかし、先代からの引継ぎがなかったことは、逆に従来の手法に

囚われない自らの発想に基づく経営に繋がった。

自身が社長となって実施した改革のひとつが収支計算の見直しであり、従来は「取引先毎」に管理していた売上や燃料コスト等の収支を「トラック1台毎」の管理に改めた。ドライバー1人ひとりを適正に評価する体系を確立したことで、ドライバー個人個人の収益・コスト意識が高まり、無駄な燃料消費の低減や安全走行、配車など運行管理の効率化が実現し、生産性やコストパフォーマンスの向上に繋がった。

輸送品質の維持・向上

同社では輸送品質の維持・向上を図るため、定期的にドライバーミーティングを実施しており、警察等から外部講師を招き「ヒヤリ・ハット」の事例を紹介するなど安全への意識を高める取組みを行っている。

さらにドライバーの採用にあたっては、あえて未経験者を採用して一から教育するようしており、他社で既にドライバー経験がある者を中途採用する場合にも、自社の方針に適した人材であるかを重要視している。

また、同社では各営業所に洗車場を設置し、トラックの清掃を徹底している。トラックはいわば「走る看板」であり、常にきれいな状態で走行することで、取引先等からの信頼度が高まるだけでなく、ドライバー自身の安全意識・労働意欲の向上にも繋がるという。



同社主力の10トントラック

なお、運輸業界全般で深刻化しているドライバー不足への対策として、同社では今後、倉庫業務の

構築を図ったうえで若年者を同業務で採用し、荷物の取扱いの習熟を図りながら、将来的にドライバー候補に育成していく構想を抱いている。また、定年後も労働意欲のある者には、関連会社での車両整備や、和東町の保育園・小中学校の送迎バスのドライバーに従事させるなど、働き手の高齢化にも目配りを行っている。

M&Aにより事業領域を拡大

同社は2015年、事業承継問題を抱えていた株式会社マルコーエキスプレス（京都府京田辺市）および滋賀丸工運送株式会社（滋賀県湖南市）と協議を行い、M&A（合併・買収）により独立採算の関連会社としてグループ傘下に収めた。

これにより道路情報表示機器や空調機器などの重量物、さらに乳製品などの食料品といった、従来同社では取扱ってこなかった荷物の運搬を新たに手掛けることとなり、特殊車両・機器による搬入・据付・解体・撤去等の輸送ノウハウを獲得、事業領域の拡大に成功した。



重量物の運搬作業

同社では様々な顧客ニーズに対応できるよう、さらなる事業領域・業容の拡大を視野に、引続きM&Aの検討を行っており、社長は「グループ企業の経営を任せられるような優秀な人材が育つよう、従業員のモチベーションを高めていきたい」と語る。経営にかける思いや今後の展望を語る言葉・表情には、“和東運輸”のブランドを高め「従業員が誇りを持てる会社になりたい」という強い意思が表れていた。（前田 徹、太田宜志）